

**=今週の祈りの課題=**

- 敗北においてこそ、主イエスの勝利にあずかることができることを覚え祈りましょう。
- 教会は、苦難に挫折し敗北したひとたちの中に立てられることを覚え祈りましょう。
- 飯坂教会(現住6名、礼拝8名、経常131万円)を覚えて祈りましょう。

**=今週の聖書日課=**

5/18(月)	ローマ	4:1 ~ 12
5/19(火)	〃	4:13 ~ 25
5/20(水)	〃	5:1 ~ 11
5/21(木)	ヘブライ	9:11 ~ 15
5/22(金)	ローマ	5:12 ~ 21
5/23(土)	〃	6:1 ~ 14
5/24(日)	ヨハネ	7:32 ~ 39

**=献金に関するお願い=**

※皆様ご存じのように、感染症による状況は相変わらず厳しく、現時点では、会堂礼拝を再開できそうにありません。引き続き個々人の祈り、家庭礼拝などでの献金をお願いいたします。

**=報告=**

\* 5/11(月) 川崎戸手教会に昨年度募った水害被災支援の献金7万円を持参しました。当日朝より現牧師館の解体に取りかかっていました。跡地に、会堂・牧師館を新たに建築します。その間、厚意の住居提供があり、間借りなさるとのこと。  
ソニエック  
孫裕久牧師より「生田教会のみなさんにく

れぐれもよろしくお伝えください。」とのこと。

**=個人消息=**

【随想】  
今朝もいつものこと、日遅れの新聞を開いてみると折込広告に「お坊さんのいないお葬式」というキャッチコピーで無宗教の葬儀を勧めるチラシが入っていた。お世話になっている真言宗の僧侶は、「お坊さんのいない…」という言葉に胸を痛めるだろうなと思いつつ、わたしには、なぜか「牧師のいないお葬式…」とも心中に響いていました。そしてさらに気の向くままに新聞をめぐっていくと養老孟司さんの寄稿文

が載っていました。キーワードは「不要不急」。  
養老さんは、年老いて不要なことをしなくなったと前置きし、生涯を回想なさっている、医学部を卒業時に自信が持てなかった養老さんは、くじに外れて精神科に入ることができず、医学の基礎解剖学を専攻する、研究室に職を得て働き始めた頃、学園紛争に突入、ヘルメットとゲバ棒にマスクで顔を覆った学生たちが入ってきて、『この非常に時に研究とはなにごとか』と大学封鎖のために研究室を追い出された、…お

前の仕事なんか不要不急だろうと、実力行使された」という。自分の仕事が必要かどうか、学生たちが問いかけただけで去って行った後も、不要不急に敏感になり、学問研究に意味があるのか問題は残った。…結局、行き着いた答えは、要するに自分次第ということ。  
宗教が不要だという世論は、宗教家の驕りを戒めるものでもあり、わたしも謙遜でありたい。しかし、他方で、宗教が不要だというひとたちも問題を抱えていないだろうか、すなわち、「自分は不要なのか」という自らへの問いを映し出しているようだと思うのはわたしひとりだけなのか。ゲバ棒もっていた当時の学生たちも「自分は不要なのか」という深層にある問いを跳ね返すように養老さんにつづけたのではなかったのだろうか。  
お金があったが、孤独で仕事に自身を持てなかったザアカイに「急いで降りてきなさい。今日は、ぜひあなたの家に泊まりたい。」と声をかけた方の呼びかけを、わたしたちも今一度、心静かに聞いてみてはどうだろうか。